

第3学年1組 算数科学習指導案

1 単元 三角形（本時7／9）

2 構想

- 〈児童観〉・絵や図形を書くことが好きな児童が多く、器具を使うとより意欲的に取り組むことができる。
- ・考え方を一つに限定してしまい、答えを出せないと周囲の児童に答えだけを教えてもらおうとする児童が少なくない。
- 〈教材観〉・辺の長さや角の大きさの相等に着目して図形をとらえ、正三角形や二等辺三角形の概念を理解できるようになる。
- ・定義に基づいて作図したり、色紙で製作したりするだけでなく、円の半径や方眼の垂直二等分線を使うことで図形をとらえる豊かな感覚を身に付けることができる。
- 〈指導観〉・三角形の定義や性質を再確認しながら進める。
- ・複数の三角形を操作して組み合わせる活動をさせることで、敷き詰められた図形の中からさまざまな図形を見つけやすくする。

3 本時の目標

敷き詰めた模様の観察から他の図形を見つける中で、辺の長さに着目し、それらの図形の特徴について筋道を立てて考えることができる。（思考・判断・表現）

4 展開

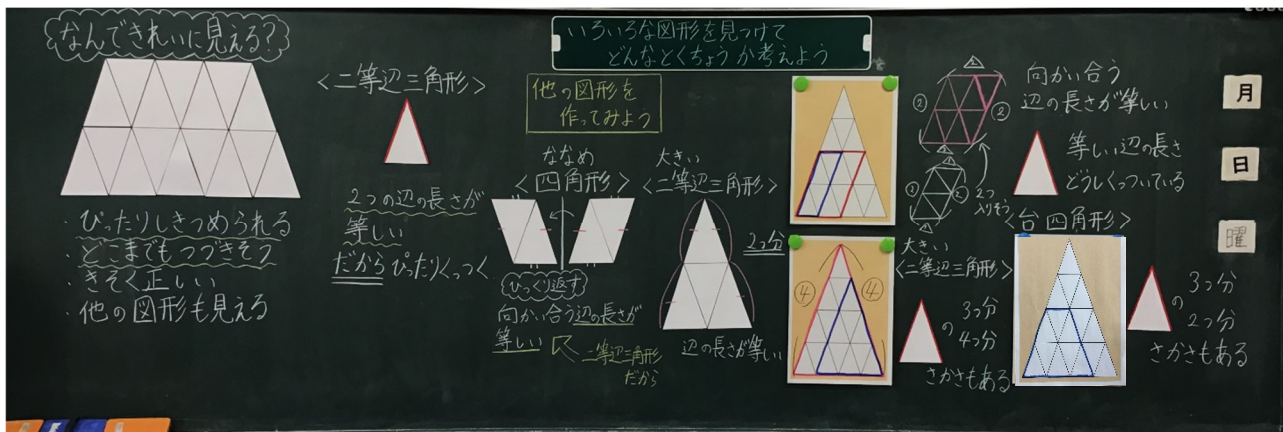
段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 敷き詰められた模様を見て、感じたことや思ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形を敷き詰めていく工程を見せ、敷き詰められた模様を作る。 ・二等辺三角形の定義を確認する中で、本時は長さに着目するようにし、角の大きさについては触れる程度にする。
課題 (2)	2 二等辺三角形の性質により、敷き詰められることを確認する。	
展開 (33)	3 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いろいろな図形を見つけて、どんなとくちょうか考えよう</div>	
展開 (33)	4 二等辺三角形を組み合わせて他の図形を作り、その特徴について説明する。 ・向かい合う辺の長さが等しいなめの四角形を作りました。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>相等の辺を組み合わせ、その特徴を辺の長さに着目して考えられた児童を意図的指名し、説明の仕方や考え方の共有化を図る。</u> ・特徴を考えることが困難な児童の図形を全体に提示し、その図形の特徴の説明を考えるように指示する。 ・見つけることが困難な児童には、作った図形を基に見つけられるように支援する。
展開 (33)	5 敷き詰められた模様の中から他の図形を見つけ、それらの特徴を筋道を立てて説明する。 ・台みたいな四角形があります。横の辺の長さは二等辺三角形の○こ分です。	
整理 (5)	6 本時の振り返りをする。	

5 評価

見つけた図形の特徴について、三角形の辺の長さに着目して考えることができたか。

（活動5の記述・発表から）

6 板書計画



7 予想される振り返り

- 辺の長さが同じだとぴったりくっついて他の図形を作ることができました。
- 正三角形を敷き詰めたらすべての辺の長さが同じなので、また違う図形ができそうだよ。
- 逆さまになった図形やひっくり返した図形もあって、いっぱい作れることを知りました。